

## 2. 市の事務事業の状況

### 2022 年度の温室効果ガス排出量

#### エネルギー起源温室効果ガス排出量

195 千トン-CO<sub>2</sub>（基準年度 2013 年度比▲21.7%、前年度 2021 年度比▲6.0%）

#### 非エネルギー起源温室効果ガス排出量

295 千トン-CO<sub>2</sub>（基準年度 2013 年度比+6.8%、前年度 2021 年度比+9.4%）

2022 年度のエネルギー起源（電力や施設燃料、自動車燃料等の利用による）温室効果ガス排出量は、基準年度の 2013 年度と比べて 21.7%の削減となり、非エネルギー起源（ごみ焼却・埋立や下水処理等による）温室効果ガス排出量は、基準年度の 2013 年度と比べて 6.8%の増加となりました。

非エネルギー起源温室効果ガス排出量については、廃棄物部門において廃プラスチック類の焼却量が増加したことなどにより増加しました。

表 2 市の事務事業のエネルギー起源 温室効果ガス排出量（推計値<sup>1</sup>）

単位：千トン-CO<sub>2</sub>

区分	2013年度実績 (基準年度)	2021年度実績 A (2013年度比)	2022年度実績 B (2013年度比)	B-A (前年度比)
エネルギー起源 温室効果ガス排出量	249	207 (▲16.7%)	195 (▲21.7%)	▲12 (▲6.0%)

表 3 市の事務事業の非エネルギー起源 温室効果ガス排出量（推計値）

単位：千トン-CO<sub>2</sub>

区分	2013年度実績 (基準年度)	2021年度実績 A (2013年度比)	2022年度実績 B (2013年度比)	B-A (前年度比)
非エネルギー起源 温室効果ガス排出量	277	270 (▲2.4%)	295 (+6.8%)	+25 (+9.4%)

### 市の事務事業の温室効果ガス排出量 2030 年度目標

温室効果ガス排出量 エネルギー起源 約 50%削減（2013 年度比）

温室効果ガス排出量 非エネルギー起源 約 20%削減（2013 年度比）

<sup>1</sup> 四捨五入の関係で、合計値、増減比又は割合が合わない場合がある。また、地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（算定手法編）に基づき、一部算定方法を見直した。